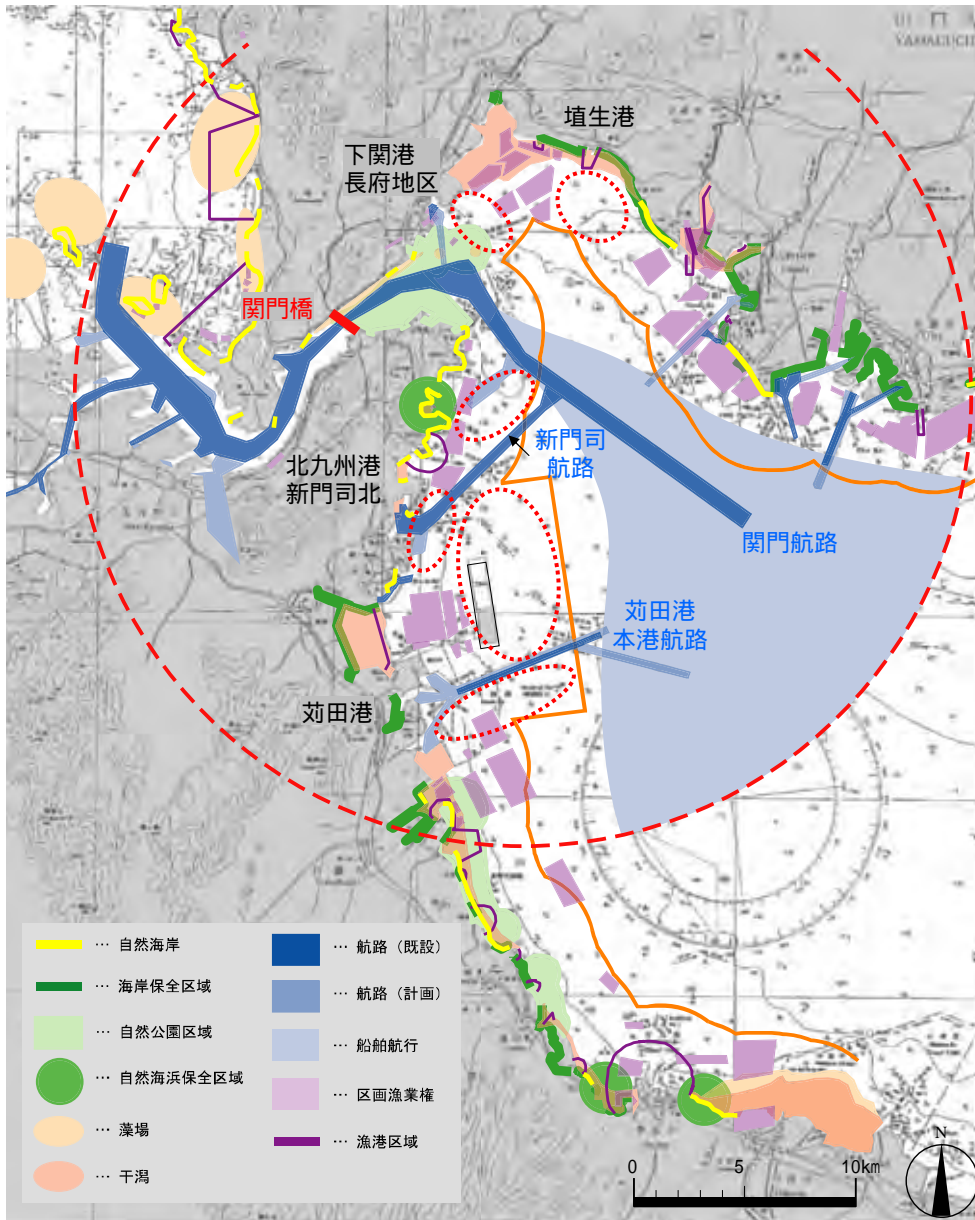


土砂処分場設置候補海域の地域特性

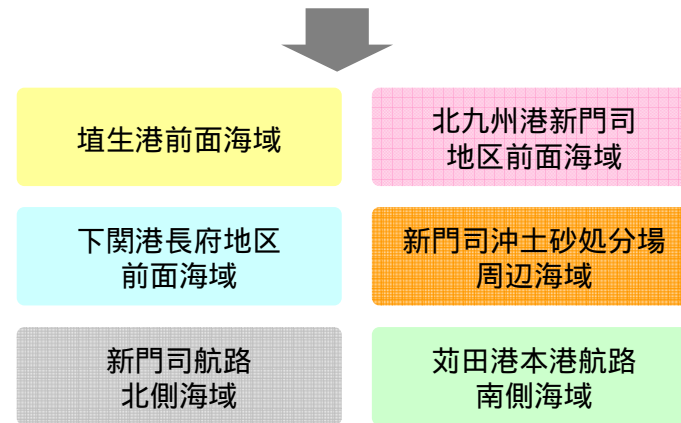
～ 複数案の設定 ～

資料 - 4

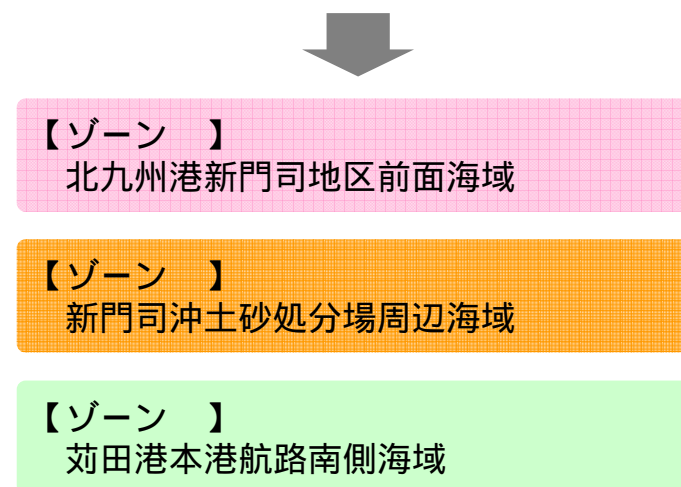
設置候補海域の選定



周辺の自然環境の特性、航行船舶の安全性、経済性等を考慮し、設置候補海域を6ゾーン選定しました。



技術専門委員会における技術的・専門的知見からの助言を踏まえ、設置候補海域を3ゾーンに絞り込みました。

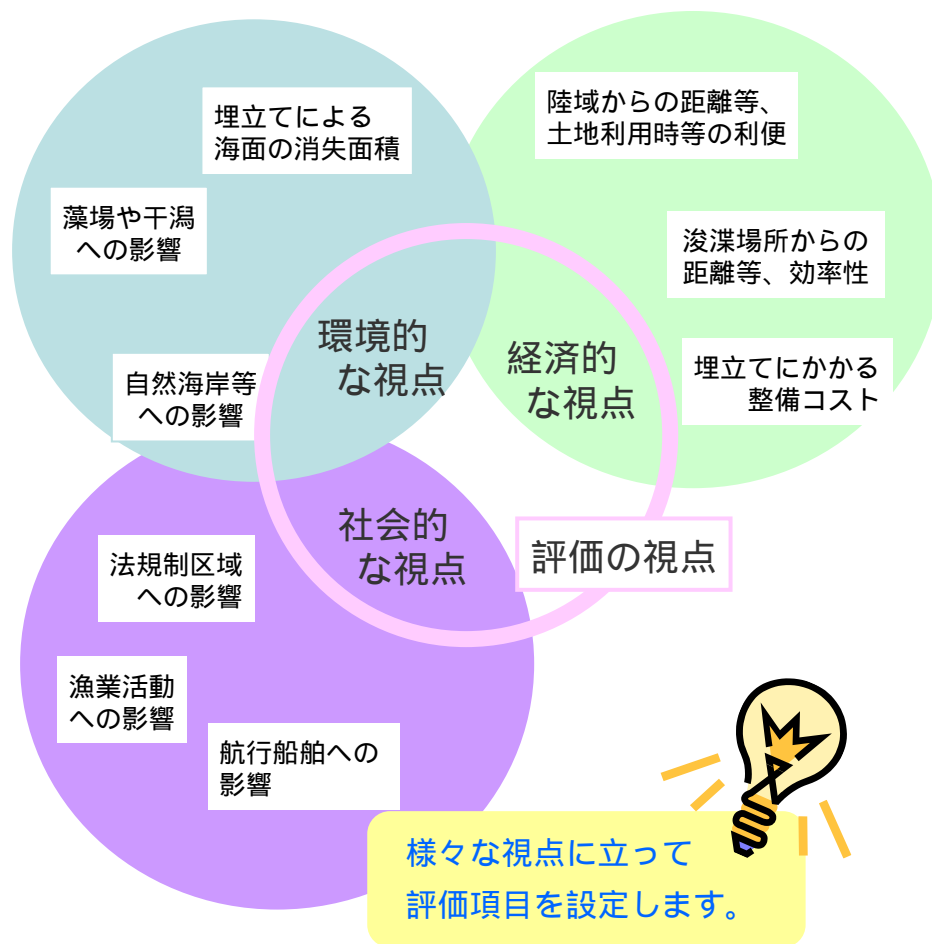


土砂処分場設置候補海域の地域特性

～ 評価項目の設定 ～

評価項目の設定の考え方

- ・ 様々な視点に立って評価項目を設定し、適切な評価を行い、土砂処分場の設置候補海域の選定エリアの中から絞り込みを行います。
- ・ 土砂処分場の設置候補海域を選出するうえで、以下のような評価の視点で項目を設定しました。



評価項目の設定

	評価項目	評価の内容
環境面	藻場、干潟	多様な生物の生育場所であり、海水の浄化に大きな役割をもつ藻場や干潟への影響を低減する観点から、藻場、干潟との位置関係を評価します。 さらに、生息する野鳥の多い曾根干潟への影響を低減する観点から、曾根干潟との位置関係を評価します。
	自然海岸	美しい海辺やその海辺からの景観を守る観点から、自然海岸との位置関係を評価します。
	海面消失面積	生物生息環境への影響を最小限にするため、処分場の設置により消失する海面面積を評価します。
社会面	法規制区域	海岸法、自然公園法、瀬戸内海環境保全特別措置法で法規制されている区域への影響を低減する観点から、位置関係を評価します。
	漁業権区域	漁業活動が盛んである海域に対して、漁業活動への影響を低減する観点から、位置関係を評価します。
	航行船舶	船舶の通航が多い港湾区域や航路を対象に、浚渫土砂運搬や処分場設置による航行船舶への影響を評価します。
経済面	浚渫土砂の平均運搬距離	浚渫土砂の平均運搬距離が長くなるとコストが増えるため、浚渫場所の重心と海域との距離を評価します。
	整備コスト（水深、面積）	護岸整備コスト算定の要因となる候補海域周辺の水深と処分場の面積を評価します。なお、設置水深と護岸延長は、処分場の具体的位置・形状により異なることから、現時点では参考とします。
	陸域との距離	将来、埋立地を利活用する場合における経済性を評価する観点から、陸域との距離を評価します。 また、陸域に隣接して設置する場合は、護岸延長の短縮により、整備コストを削減できる可能性があります。